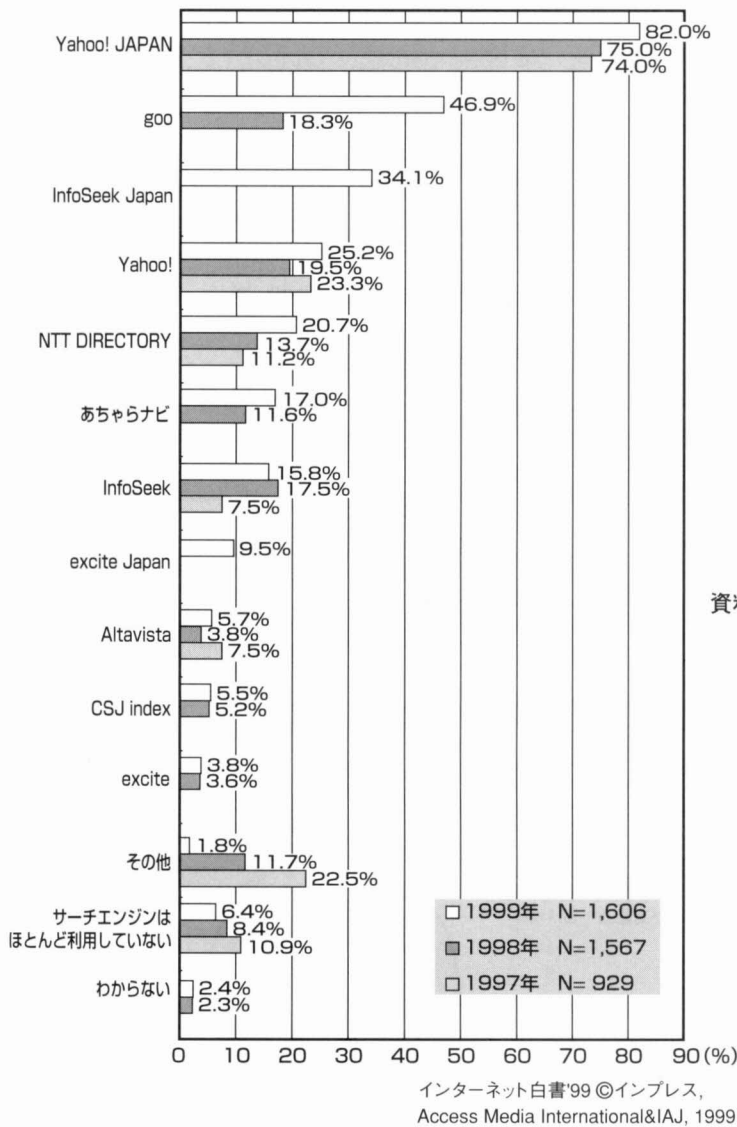
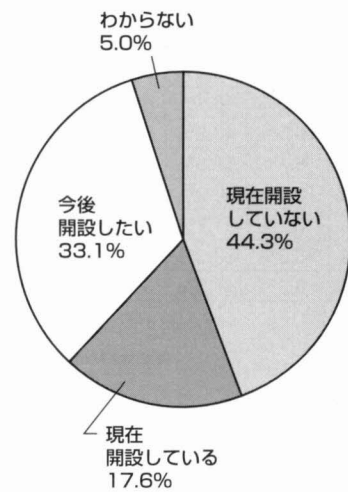


検索エンジンの使い分けが浸透

資料1-2-11 主に利用している検索エンジン(1997年-1999年)

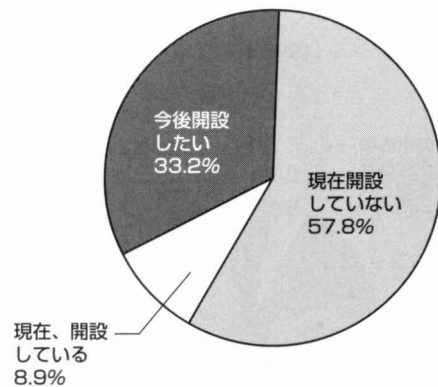


資料1-2-12 個人ホームページの開設有無(1999年) N=1,606



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-13 個人ホームページの開設有無(1998年) N=1,567



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

解説

検索エンジン(検索サービス)については9割以上のインターネット利用者が利用している。昨年までの調査でも利用率は高かったが、現在もその利用はさらに伸び続けている。

従来から検索エンジンはインターネットを利用して情報収集する際の基本サービスという位置付けであったが、1人当たりの利用率が高い点が大きな特徴といえる。これは利用者が複数のサイトを使い分けしていることが大きな要因であるが、さらにサービス提供側が他社との差別化を図るためにさまざまな特色を持たせてきたことや、最近ではポータルサイトとしての個人向けカスタマイズサービスなどを

行なう検索エンジンが増加したこともそれに拍車をかけている。

検索エンジンを個別で見ると老舗の「Yahoo!JAPAN」が最も支持されており、利用者全体の82.0%となっている。本調査始まって以来7割以上の支持を受けてきたが、株式の公開などから初心者層にも名前が浸透しており、今回もさらに利用率を上げている。

また、今回の調査では2位、3位が大きく伸びた点が注目される。昨年初登場2位だった「goo」は46.9%と2.5倍増となり、3位の「InfoSeek Japan」も34.1%の支持を集めた。

今回初登場の「excite Japan」も9.5%となっ

ているが、これは英語版での知名度の高さから、支持を獲得したものであるといえる。

個人ウェブサイト、ホームページの開設については「現在、開設している」回答者が17.6%、「今後開設したい」が33.1%と全体の半数は感心が高い。これは最近ワープロソフトにHTML作成機能が含まれたり、個人向けのHTML作成ソフトが多く出荷されるようになったことも大きく影響している。

(矢野さよみ)

アクセスメディア インターナショナル株式会社



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp